

台湾芸能の魅力

人間科学部人間科学科 4年 吉田 萌夏

昨年に引き続き、今年も台湾ドラマについて述べていく。今年もたくさん作品や俳優を知り、ますます私の中のブームは拡大傾向である。さらにドラマのみならず、主題歌からC-POPへの魅力も感じ、歌にも興味を抱くようになった。今回は、ドラマの魅力だけでなく、歌や歌手についても考えていく。

そんななか、今でも世間で人気が根強いのは華流（フアーリュウ）よりも韓流（ハンリュウ）であり、台湾ドラマを盛り上げるヒントと考え、韓流ブームについても考えてみることにした。

まずは韓流について、その魅力と感ずることから以下の4つ述べる。

1 韓流ドラマの魅力

魅力1、展開がベタである

韓流ファンである友達に話を聞いたところ返ってきた答えがそれである。いい意味でベタであること、くさいセリフなども逆に受け入れられてしまうところが魅力の一つであるという。漫画のようにあり得ない設定の純愛ラブストーリーというところが特に女性に人気が出た要因であろう。

魅力2、俳優の涙の演技がすごい！

韓流ドラマでは男性の俳優も涙を流すシーンが多く登場している。日本のドラマではそれほど多くないそのようなシーンを魅力的に感じる人は多いのかもしれない。

また、韓国ドラマの特徴として、因縁関係で

ある相手と恋をしたり、交通事故や不治の病などの状況が多い。そのようなシーンで辛い恋愛を乗り越えていく上で男性も女性もよく泣くのである。

韓国ドラマのファンはそのような人間味溢れる涙を「なぜ？」と感じる人が多いのだそうだ。

魅力3、展開が視聴者目線であり放送回数も多

い

前回台湾ドラマの特徴を述べた際に韓国ドラマの特徴も少し述べたが、日本や台湾のドラマと韓国ドラマが大きく異なっている点は、視聴者の目線を一番にドラマを展開しているところなのではないだろうか。

まず、韓国ドラマは放送回数が1クール25話前後と長く、さらに人気によっては伸びること

も多いそうだ。CMも間に入らず放送も日本と違って週に2回、さらに視聴者の反応によって脚本の内容が変更になる場合もあるのだそうだ。日本ではそのようなことは考えられないし、韓国の俳優はほんとうにハードな仕事なのだという。

魅力4、韓国語の響きに魅了される³²

最近韓国語を学ぶ人が増えているというのはよく知られた話である。私の周りでも韓国ドラマに魅了された人に話を聞いてみると「韓国語の響きがいい」などと言ってドラマを見る際には必ず吹き替えでなく字幕で見るといふ人が多い。私も海外ドラマ（欧米のドラマもアジアのドラマも）を見る際には、字幕で見える方が好きであるし、その気持ちはよく理解できる。

大学の友達には韓国語を履修している子が何人もいる。さらに韓国語は履修希望者が多く、抽選漏れして履修できず残念な思いをしている人もいるほどだそうだ。

ちなみにここでは余談であるが、去年（3年生）の夏ごろから華流ファンになった私は、4年生の今、中国語を履修している。今まで第2外国語に全く興味もなく外国語といえば1年生の1年間英語を履修していたくらいだったのにこの変化は自分でも驚いている。ドラマの影響

は私にとっては良いものであり、「台湾ドラマを字幕なしで見られるようになりたい」という目標を掲げ、無欠席で予習復習も一生懸命やっていたので、単に単位をとる勉強でなく身に着く勉強ができたと感じている。

私のように韓国語を履修している友達も韓国ドラマを字幕なしで見られるように勉強をがんばっていることと思う。

一部脱線した個所もあったが、以上が話に聞いた、私の感じている韓流ドラマの魅力的な部分である。続いて台湾ドラマの魅力については、前回の記事書いた以下の3点のほかに1点私なりの魅力を述べる。

2、台湾ドラマの魅力

魅力1、日本のコミックが原作になっている作

品が大多数！

流星花園（花より男子）をはじめ、悪作劇之吻（イタズラなKiss）
花様少年少女（花ざかりの君たちへ）、
公主小妹（ろまんす五段活用）、
蜂蜜幸福草（ハチミツとクローバー）、
悪魔在身边（悪魔で候）、
桃花小妹（桃花タイフーン）、

貧窮貴公子（山田太郎ものがたり）

愛似百匯（パフェちっく）現在台湾で放送中
と、私を知っているだけでもこれだけの作品が台湾でドラマ化されたりリメイクされている。中には日本でもドラマ化されている作品もあり、日本版と台湾版ではまた違った魅力がありどちらも違った楽しみ方があるのではないかなと思う。

魅力2、地域の特徴をうまく利用している

韓流ブームで流行したように、華流ファンにとってもロケ地めぐりなどは楽しみの一つとなっており、日本の原作の作品もうまく台湾で馴染んでおり今まで台湾にあまり関心がなかった私もぜひ台湾に行ってみたいという気持ちになった。

魅力3、俳優が魅力的

台湾の俳優にありがちなのは役と実際の人柄とでは全く正反対の性格の人であってあえて起用される場合もあるということだ。自分が演じているドラマにとっても思い入れを持って、役作りに大変こだわっている人が多いように感じる。日本のドラマよりも全体的に長いからかなのではないだろうか。

（※以上3点のさらに詳細については前回の記

事参照)

魅力4、主題歌や挿入歌が効果的

ドラマに欠かすことのできない主題歌や挿入歌について注目してみる。日本のドラマを見ていてもほとんど意識していないことが多いのだが、最近では台湾ドラマを見ていくと口ずさんでみたりするのだ。

ドラマで感動的なシーンに使われている挿入歌は普通に聞いているだけで泣けたりするから不思議である。「悪魔で候〜悪魔在身边〜」でのレイニー・ヤンの主題歌「曖昧」、挿入歌「理想情人(理想の恋人)」という曲についてはレイニー本人もとても思い入れのある曲だと話しているが、私にとってもとても思い入れのある曲となった。

念のため断わっておくが、中国語を学習し始めてまだ半年の私には多少の簡単な単語を聞き取れる程度で、歌詞などはほぼわかっていない。

上記では主にドラマについて述べてきた。ここからは少し視点を変えて、台湾をはじめ中華圏のC-POP、私が注目している台湾歌手を何人か紹介する。

3、歌手・歌の魅力

1、来るのかC-POPブーム

K-POPブームについては毎日のようにメディアが報道しているので、おなじみであろう。ただC-POPとなればどうだろうか。私は以前から注目しており、仲間内では「C-POPが好き」と公言しているが、反応といえば「なにそれ？」というものだ。

しかし、そんなマイナー路線の私にも転機が訪れるかもしれない出来事があった。台湾のトップアイドルグループ「飛輪海(フェイレンハイ)」が日本でアルバムをリリースし、そのイベントが開催されたのだ。2011年1月11日ラゾーナ川崎にてイベントは行われた。私もファンとして行ったのだが私の想像とは裏腹に集まったファンは1万人にもなったそうだ。

16:00から始まるイベントにも関わらず午前10:00の時点で300人待つっており、早い人は午前4:00から会場にいたという。

メディアも多数来ており、翌日の芸能ニュースで「C-POPがこれから流行するかもしれない」と紹介された。

2、飛輪海だけではない日本大好きアイドル

以前も紹介したかもしれないが、台湾はとも親日国家であり、一般の人を始め台湾芸能人も親日家はたくさんいる。

飛輪海も親日アイドルのうちの1組ではあるが、そのほかにも「楊丞琳(レイニー・ヤン)」「羅志祥(ショウ・ルオ)」が有名だ。レイニー・ヤンは2010年念願の日本デビューを果たした。ショウ・ルオはプライベートでは1〜3カ月に1度は必ず来日する大の親日家で、日本の倅田未来とコラボレーションしたこともある。以前から日本にファンクラブは持っていたものの、公式来日の機会はなかった。2010年念願のライブを行った。日本語も勉強しているので、MCはほとんど日本語だったそうだ。そのような親日アイドルをもっと日本でも受け入れて売り出してほしいと思う。

3、J-POPカバー曲が多い王心凌

代表的な台湾アイドルの一人王、心凌(シンディー・ワン)は日本語曲のカバーが多いことで有名だ。

『月光』(ヴィレッジ・シンガーズ、島谷ひとみ「亜麻色の髪の乙女」)

『愛的滑翔翼』(大塚愛「桃ノ花ピラ」)

『打起精神来』(竹内まりや「元気を出して」)

『蝴蝶』（夏川りみ「雨降樹の下で」）

『心電心』（オレンジレンジ「以心電心」）

など日本でも有名な曲ばかりである。自身のコンサートで「亜麻色の髪の乙女」を日本語で歌いあげたこともあるそうだ。

以上のように、華流が日本で流行する条件は整っている。韓国人気はいまだに根強いけれど、台湾をはじめ中華圏の芸能が日本でもメジャーになり、アジアが一体となり盛り上がる日が来るといいというのが私の素直な思いである。